

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評	関係評価委員から	改善策
自分が好き 友達が好き 心豊かな蒲原の子	「おもしろそう」 「やってみよう」	「おもしろそう」と興味を持った遊びを繰り返し遊ぶ	○子どもが興味を持った時にタイムリーに関わり、子どもの姿をよく見て見逃さないようにした ○子どものつぶやきや遊びの様子から今何に興味を持っているのか探り、その遊びができる環境を作っていた △1回作ると満足するなど単発な遊びが多く、明日もやりたいと遊びが発展し継続して遊ぶことが難しかった	C	B	・大人数なら多種多様な発想が出て遊びも繰り返し継続していくかもしれないが、少数ならではのアイデアが少なく単発な遊びになりやすい。一度満足したら終ってしまう事は多い。子どもの興味は当然変わっていくので、そこからどうしていったらいいのかを考えることが大事になっていく。 ・無理やり保育者の思う方向に持っていくことはできない。子どもがやってみたくて思うにはかけや準備が大事になってくる。見出さずでは難しいので、タイミングを見極め、一歩引いて子どもに任せてみるなど人的環境の工夫が必要になる。 異年齢での遊びから年齢ごとの活動への切り替えは職員間での連携が大事になってくる。	・子どもとの振り返りを丁寧に行い、やりたい遊びがなくなっていくよう環境を準備する。 ・子ども達がやりたい遊びを工夫するために、環境の再構成をしたり、もつこうしてみようというイメージが膨らんでくれるようさりげなくヒントを出したり。また友だちのやっている姿に気づき真似してみようと思えるような言葉のかけ方をするなど、子ども達が試行錯誤できるような見守り、応用力を育てていく
		自分のやりたいことを見つけ、工夫したり、試したりして遊ぶ	○自然物や廃材など遊びが広がる素材を用意し、子どもの興味に合わせコーナー（環境）を充実させるよう心がけたことで、子ども達がやりたいことを見つけ、描いたり作ったりとやってみようという姿が見られた △子ども達がやりたいことを見つけ、試したりして遊ぶ姿はあるが、もつこうしてみよう工夫が少なかった	B	B		
		一緒に遊ぶ中で思いを伝えたり「やってみよう」と思いを出して遊ぶ	○保育者が答えを先に言ってしまう「どうしたらいいのか」と投げかけたり、子どもだけで話し合いができるように誘い、子どもの思いや考えていることを引き出せるようにした △自分がどうしたいか思いを出せるようになってきているが、まだ大人を頼ることも多く、子ども達だけで思いを伝えたり、遊びを進めていくことが難しい	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評	関係評価委員から	改善策	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	乳幼児期に育てたい姿を踏まえ、年齢による発達の違いを理解し、一人一人の発達や個の実態に合わせて援助する	○振り返りや公開保育、会議（個の様子話し合い）などで一人一人の様子を伝え合い共有している。歳児のねらいや育てたい姿、経験させたい事などを踏まえ、一人一人の発達や個の実態に合わせて援助するようにしている	A	A	・家庭との連携では、園と子育ての喜びを共感し共有してもらっていると思う。保護者との共感を若い先生は感じとれていないのかも。日々の保育の中で、できるだけ時間を作り、保護者との話を共有する機会や共有する場を意識して作ってほしい。園の地域との取り組みを周りの人にもっと知ってもらえるといいと思う。	子どもの姿からその子に何が必要か、個々の子どもの支援、目指していくねらいを職員間で話し合い抑えていく。日記にはねらいに合ったエピソード（子どもの姿）を記入していく	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭との連携を図りながら、一人一人の生活リズムを大切に、安心して過ごせるようにする	○連絡ノートや個別面談を通して生活リズムの把握ができ、家庭と連携し生活リズムを整えることにつながった。朝の受け入れ時、家での様子を丁寧に聞き取り、個々の状態に合わせて配慮を行っている	A	A		引き続き受け入れ時の聞き取りを丁寧に、個々の状態の把握をしていく。その子に合わせた保育を考え、多様性に合わせた配慮をしていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	「やってみよう」と遊びたくなる環境作りをする	○子どもの興味を探り「やってみよう」と遊びたくなるような環境作りやタイムリーに必要な道具を出すよう心がけている ○子どもとの振り返りから「明日もやりたい」につながるよう環境を用意することで、遊びが続き楽しむ姿が見られている △その日より子どもの興味が変わってしまい、再構成しにくい時がある	D	A	・リズムマネジメントについては、まさかということが起きることを想定していくことが大事になってくる。命に関わることは、すぐに改善し徹底していく。引き続き会議で何を大事にするか選択していく等の共有を図ることが大切である。	子ども達の興味や遊びがこうなるであろうと予測しながら見通しを持ち環境を用意する。子ども達が遊びの継続を思い出せるようドキュメンテーションを貼っておくなど工夫する。発達を踏まえた遊びの経験ができるよう意図的、計画的に環境を整える。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットや毎月の避難訓練・不審者訓練を通し、反省評価を次月に生かす	○訓練時の子どもの姿から災害時の避難の仕方が身に付いてきている ○クラスのヒヤリハットは月の反省用紙に記入し会議で共有できた。ヒヤリハットの危険な事例はすぐに改善するようにした △課題検討する機会を設けたりするが、なかなか時間を作ることが難しく乳児と幼児のすり合わせができなかった △園のおかれている状況を考えているいろいろな設定の訓練をしているがその都度課題が出くるので常に意識しながら行っている	B	B	・今後も意識を高め、感染対策をしっかりやっていかなければならない。コロナが外れて以前のような生活が戻ってきているが、世代間で思いのズレがある。コロナの時に生まれた子には特に、母親が育てていけなくていいかわからないと聞く。親子を支えていく必要がある。	訓練後、その日の振り返りで反省を出し合い、用紙に記入する。月の反省会議で課題を報告し、乳児幼児の現状や課題を共有しPDCAにつなげる。ヒヤリハットも会議で共有し改善点話し合う。いろいろな設定の場面を想定した訓練を行い、安全に子ども達を避難させることができるのか確認しあう	
		(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣の自立や体を動かす遊び、食育を通して健康に過ごす	○基本的な生活習慣の習得は個人差もあるが、歳児ごとのねらいを捉え一人一人に合わせてやり方で関わっていった。職員会議でクラスの様子を報告し、共有できるようにした ○手洗いの歌を歌い、乳児から興味を持って手洗いができるよう指導し、手洗いやうがい身に付いている。 ○毎月、食育の日に取り組みを行い、様々な食べ物に関心をもち、楽しんで食事ができるよう計画的に行った △保健の約束を理解してきているが、掲示物が子ども達に見えにくく興味を持ちにくかった	A	A		保健の約束を、貼る前に子ども達に話をしてから子ども達の目の高さに貼るようにする。引き続き基本的な生活習慣のその子の課題やねらいを持ち丁寧に関わりをしていく。体を動かす遊びや食育を通して健康に関心を持てるようすすめていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもに合った支援を実施し、職員間で共有していく	○特別支援のコーディネーターを中心に研修で学んだことを回覧したり会議で報告する。 ○会議で個の様子を話し合い、様子を共有できている	A	A	・組織運営では、職員の人数が少ないので、一人一人の持つ分掌の責任が大きいが、連携してすすめて行ってほしい。	引き続き個の様子を伝え合う会議を行い、子ども一人一人について細かく共有し合っていく。また、一人の子どもに焦点を当て課題や援助の方法など話し合う時間を作っていく	
		(1)組織体制の充実	全体的な計画に基づき、自分の分掌に対して責任を持ち、年間計画やねらいに沿って企画、運営を行う	○担当を明確にすることで自分の分掌という責任を持ち年間計画に基づいて実施できている。会議で分掌ごと振り返り、来月やることで明確になった △分掌の企画、運営がうまく回らず、乳児と幼児のすり合わせができず取り組みが見えにくいこともあった。	B	B	今後、ICTが導入され、仕事の効率がよくなると思われるが、対人関係から考えると不安に感じる部分もある。システムでは保護者の思いや状態が見えず子育ての不安が強化されにくいという不安もある。今後保護者とのつながりをどうつなげていくのが大事になってくる。何を重視するか、業務改善とともに、よく見定めいかなければならない時代になってきている。	各分掌を中心に、年間計画作成に皆で取り組み、各学年の計画に組み入れていく 幼児、乳児ですり合わせをし、連携して運営していく。役割分担等声をかけあい細かな共有を図り進めていく
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマに基づき手立てに合わせ、環境構成や援助を探るとともに、園の教育保育について語り、学びあう	○指導主事や支援員の先生に来ていただき、研修主任を中心に年間計画に沿った公開保育や園内研修が実施された。研修の仕方を工夫していったことで、若い職員からの意見も出され学びが深まった。研修だけでなく、学びを振り返り、確認することができた △研究保育後の自分の保育や子どもの変化等の共有する時間が持ていなかった	A	A		園に合った園内研修の方法を探っていく。研究保育後の自分の保育や子どもの変化等の振り返り共有する時間を作る	
		(1)教育・保育環境の充実	子どもの思いを見取り、一人一人に合わせ、思いを出して遊ぶための援助を行う	○子どもの興味を探りながら何が必要か環境を用意していった。幼児製は製作コーナーが充実することでやりたいうい思いが出され、意欲的に作る姿が見られた ○乳児も子どもの興味に合わせ必要な物を準備し、動線を考えた置き方や子どもの扱いやすい高さなど配慮することで、子ども達がじっくり遊ぶ姿が見られた。 △職員間の振り返りの中で、意見を出し合える振り返りができていなかった	B	A	・小学校のスタートカリキュラムや1年生のお泊りなど、こども園の子どもの交流の場ができたことはよかった。西小だけでなく、年長児の進学先の東小との交流も子ども達にとってはよかったのではないかと。来年度は、小学校からもしっかりこども園の方に向かい交流を図りたいと思っている。 東部こども園だけではなく、私立を含めた近隣の園との交流や地域のお年寄りとの交流ができたことはよかったと思う。	職員との振り返りの中で、一人一人の子ども達の思いや子どもの思いを伝える環境を作るにはどうしたら良いかなど職員間で意見を話し合っていく。内容やポイント絞り、振り返りの方法を工夫していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	日々の子どもの育ちや良さを保護者に伝えたり、保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるよう務め、保護者との信頼関係を築く	○連絡ノートやドキュメンテーション、クラスだよりで子どもの様子を伝えている。遊びの様子等を写真等視覚で載せているので、伝わりやすく楽しみに見られているようだ。 ○懇談会では写真で園の様子を伝えたり、家での様子や保護者の思いを聞くことができた。 △参加会を通して子どもの成長を伝えることができた。保護者と信頼関係を築くことができていたが、子育ての喜びを共感し合うまではできていなかった	B	A		写真等を載せたクラスだよりやドキュメンテーションなどを引き続き継続していく。参加会や懇談会で子どもの成長を伝えたり、保護者の思いを聞きながら子育ての喜びを共感し合っていく	
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流・公開保育を行い、情報交換や連携を図る	○近隣園との交流が昨年より行われた。 ○職員が小学校の公開授業に参加したり、年長児が小学校と交流を持つことができた	B	A		引き続き年長児を中心に小学校や近隣園との関わりを増やしていく。いろいろな職員が授業参観や公開保育に行かせていただいたり、交流を持つていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンの実施、支援センターや児童館との交流など地域との関わりを深め、様々な人との関わりを大切にいく	○S型サービス訪問で高齢者と触れ合ったり、運動会で蒲原音頭を踊っていただくなど、地域の方や自治会の方とのつながりを持つことが出来た △職員が支援センターに行く機会が少なかった	B	A		引き続き、支援センターと交流し地域の保護者の方と話ができる機会を持ち園のことを発信していく。地域とつながる方法を探っていく。	